

実践事例⑨ 日野市立夢が丘小学校

1 取組・活動名

「様々な人とともに生きる」

2 取組・活動のねらい

- 日常の成果を発表する中で、近隣の学校との交流をおこない親睦を深める。
- 障害の有無に関わらずお互いに理解・尊重できる共生社会を探究する。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・20時間」

4 実施上の工夫

- ・ (事前・事後活動) 「点字の読み取り」「車椅子体験」「ブラインド歩行」などの活動を取り入れ、障害者の立場での体験を通して、障害者理解を深めたり共生社会の実現に向けてどのようなことができるかを追究したりできるようにした。
- ・ (交流に向けての配慮) 特別支援学校がどんなところでどんな児童・生徒が通っている学校なのかを知り、障害児も自分たちも同じ存在として捉えられるよう、七生特別支援学校の教員による「出前授業」を設定した。
- ・ (交流での場面設定) 児童同士が交流したり両校の親睦がより深まるよう、両校での取組の成果を発表したり、共同して一つのことに取り組む「三連フラフープリレー」や「パラバルーン」などの活動を取り入れた。

5 本取組・活動の内容



【三連フラフープリレー】

- ・ つないだフラフープ3つをバトン代わりにして、両校の児童が3人一組となったリレー競走を行った。
- ・ 3人でスピードをあわせることや、コーンを素早く回るため協力したり声をかけ合ったりする姿が見られた。
- ・ 3チームによる対抗リレーの方式をとったことで、児童同士での一体感が生まれた。



【パラバルーン】

- ・ 両校の児童が交互に並び、音楽に合わせてバルーンを膨らませた。
- ・ 音楽に合わせたステップなどは、当日七生特別支援学校の児童から教わった。息が合うごとにバルーンは大きく膨らんでいった。
- ・ 最後は、大きく膨らんだバルーンの中に、全員が入り、バルーンの中では、やり遂げた達成感から何ともいえない爽快な児童の笑顔が見られた。



【施設見学】

- ・ 七生特別支援学校の校内を見学し、教室の様子やプールなどを見学した。また、事前の出前授業で教わった教室の様子などを、実際に確認させてもらった。
- ・ 教室の広さやつくり、机の数、時間割の掲示の仕方など、自分たちが目にする教室のイメージとは異なる点に関心を持ち、質問コーナーでは多くの児童が手を挙げていた。

6 成果

- ・ 「学習発表会」での交流を行った翌日に、保護者を連れて七生特別支援学校に足を運んだ児童がいた。交流を通して、児童から地域に交流の輪が広がるとともに、特別支援学校に対する理解を高めることができた。
- ・ 七生特別支援学校に対して児童は漠然としたイメージしかもっていなかったが、交流を行ったことで、体験に基づくはっきりとしたイメージをもつことができるようになった。
- ・ 障害を克服するために「点字」や「スロープ」があることなど社会にはあらゆる人たちを支援するための工夫がされていることや、私たちにもできることがあることに気付くことができた。